midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

１２月号の１枚：紅葉に染まる相模湖・嵐山

［巻頭言］ 市民の目で「森林・林業再生プラン」を考える

森林率世界第2位(68%)の日本では、放置による荒廃森林が進んでいる

森林資源大国のわが国が、これを活かしていない事に納得がいかない。これを考えるために数冊の参考書を読んでみた。特に目を引いたのが徳川林政史研究所【編】の「森林の江戸学」であった。江戸時代300年全ての時代が良好な森林管理が行き届いていたわけではないが、幕府の各藩に対する森林撫育思想は体系的・合理的であった。森林を如何に重要なものとしたかは以下の資料で表されている。

「国の宝は山なり、山の衰えは則ち、国の衰え也」、「山林は田地の水元・・・（秋田藩・渋江正光）」、②長期輪伐法を採用し森林経営の安定化を図った（土佐藩・野中兼山）。③人間と調和する治山治水と共に伐採法の整備に尽した（岡山藩・熊沢番山）。④江戸末期では、暴れ天竜（天竜川）を鎮めた金原明善がいた。⑤「盗伐１本首一つ」と言う厳罰を取った藩もある。

いずれにしても、人間も自然の摂理の中にあって生かされていると言う「自然哲学」が中心に置かれ、林政・農政が徳川300年の施政の基盤となっていた。「森林・林業再生プラン」はどうだろうか。頭から藪に突っ込む森林ＮＰＯとして気になるところだ。

富国強兵策を国是とした明治維新後、日清・日露戦争・第二次大戦。続く戦後復興で経済至上主義を取った。わが国政には、森林・自然哲学が欠落していると思う。中欧林業をモデルにするのに異論はないが、ドイツ平地林よりわが国の地形から推して山岳林：オーストリアを参考にしたいが、この数年来の輸入材は、スウェーデン、ノルウェーが急伸している。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.12

12月 2日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
12月16日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

11月4日（第一日曜日）

落ち葉が降り積もり、森の中がすっかり秋色の11月の定例活動、Forest Nova☆からは7名が参加しました。さらに、卒業生でプロの林業家になった齊藤さんと、キャンプで自然の魅力を伝えている神宮さんも参加され、とても賑やかな活動となりました。

活動は、カブトムシ牧場2号機の材準備のための、材加工と、以前から行っている径路作りの、二手に分かれることとなりました。

昨年の冬、緑のダムの齊藤さんをはじめとし、多くの方の協力で嵐山にカブトムシ牧場が設置されました。そんな、カブトムシ牧場の2号機のため、今回は丸太から、6cm板を2枚と丸太を半分に切ったものを（半割り）1本作りました。

大きなチェーンソーを使っての活動でしたが、チェーンソーに触るのが久しぶりだったので、チェーンソーの扱い方を思い出しつつ、いつにも増して、その使用には注意を払いました。一緒に活動したのは、チェーンソーをまだ扱ったことのない、1年生の釜谷君でした。私は、自分の知識をどのように彼に伝えていけばいいのか、戸惑ってしまいました。いつも、先輩方や、緑のダムの方に教えてもらってばかりで、いざという時に対応できなくなってしまっていることに気が付きました。今後、このような場面が増えてくると思います。多くの方に教えてもらいながらも、後輩に自分の知識を伝え、たとえ自分が卒業しても、知識が受け継がれていくような、そんな持続的な活動を行っていければと思いました。

径路選定は径路完成までの見通しを立て、径路となる際に邪魔になる低木の広葉樹などを伐ったり、欠頂木を倒して新規径路の整備をしました。

径路整備班は5本間伐し、尾根の利点を無駄にしないで、登りやすいように上手く径路を伸ばすことができました。途中から径路選定班とも合流し、間伐は力を合わせて行いました。ＯＧの神宮先輩に教わりながら上手くつるを残して倒す事も出来、先輩から教わる事も沢山ありました。

径路補修班は、今まで作った径路が壊れていたり、登りにくくなっている場所を直したりしました。デザインも工夫し、踊り場のようになっている箇所を石畳のようにしたりして、径路が歩きやすく、今までより楽しい道になりました。

先輩方が卒業してもこうして活動に来て、知識や技術を伝えてくれる。そんな嬉しさを噛みしめながら、これからも森をよくするために活動を続けていきます。

望月　亜佑子、吉崎　香代
（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

11月18日（第三日曜日）

山々が色づき始める季節、今日も多くの参加があった。このところ中学生から大学生までが全体の７割近くを占めるようになり、私も含めたおじさんたちはちょっと肩身の狭い思い。しかし、学生の熱気は私たちを若がえらせてくれる。感謝！

先月に引き続き、日大の学生２５名ほどの参加もあった。加えて麻布大学の政岡学長、原田講師の来訪も。自校の生徒が中核となっているフォレストノバがどのような活動をしているのか、その様子を自らの目で見てみたいとのことである。これをきっかけに麻布大学と当会との関係が深まれば何よりである。

さて、今回は高井戸中が期末試験を控えているため、生徒さんたちは不参加。森にこだまする元気な声を聞くことができないのはちょっぴり残念。しかし、OB４名が望星高校に加わり、トチノキの樹高、胸高直径を計測する。生徒たちは急斜面に手こずりながらも何とか作業を完了。

午後には枝打ち、間伐も行った模様。森はかなりすっきりとなったが、これまで手をかけ育ててきただけにどこか寂しさを感じてならないとは指導教員である宮村さんの弁。

ノバの作業は径路整備と間伐。間伐では２本目が木に掛かってしまい、悪戦苦闘。終礼にも間に合わず、川田さんの力を借り完了したのは４時半過ぎとなった。お疲れ様。

お花畑班のベテラン陣も若者に負けてはいない。山主である鈴木さん宅から調達してきた孟宗竹を縦に割ったり、曲げたりしてモッコウバラのアーチ作りに奮戦する。なかなかの出来栄えだ。これなら来春にはきっと見事な花景色が期待できるだろう。

本日のおまけはキノコ。昨年の春につくっておいたキノコのほだ木にナメコがびっしり。カワラタケやスエヒロタケなどの害菌がつき、収穫は絶望と思っていただけによく生えてくれました。ノバの学生や常連たちも大はしゃぎ。各自ビニール袋に詰めて持ち帰ったのはいいものの、果たしてあれは本当にナメコだったのか？

来月、皆が元気な姿を見せてくれることを祈っている。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
湘南の森活動報告

10月27日は春の植樹の活着状況を確認、植樹本数105本のうち70本が生育、苗木の弱さ、夏の日照り、イノシシによる掘り起こしなどで枯死があった。ジュウガツザクラが満開、この日は土曜日であり、多くの人が愛でていた。

10月12日には、秋の花はバアソブがひっそりと藪の中に咲いていて、他の雑草と一緒に刈り払いをするところであった。果実はヤブコウジ（十両）、サンショウ、の赤い実が目立った。

アサギマダラは弱々しく飛来し、南に帰りそびれた個体だろうか。暑い夏で発生量が多かったと思えるアカボシゴマダラが素手で捕まえられた。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
ForestNova活動報告

11月3日、文化の日。この日は、私達が普段活動をさせていただいている小原地域の一大イベント、小原宿本陣祭が行われました。

小原宿本陣祭とは、県下で唯一残る本陣という重要な歴史文化を後世に伝えていくためのお祭りです。当日は、沿道には甲州街道の町並みが再現され、地域団体による本陣太鼓・お囃子、本陣祭歴代ポスターの展示などでにぎわっています。

ForestNova☆も、毎年本陣祭に参加させていただいています。今年で3年目ということで、地域の方ともすっかり仲良くなり、地元の方と間違われる嬉しいハプニングもありました。

また、今までは麻布大学からの参加だけだったのですが、今年はそれに加え、千葉大学、女子美術大学からの参加もあり、小原の方との繋がりがより密接に、そして、拡がってきたような気がしています。

今回は、駕籠（かご）かきと準備のお手伝い、さらにForestNova☆が単独で、嵐山の木を使った木工体験のお店を出展させていただきました。

駕籠かきでは、去年も参加した2年生が二名と、一年生が2名の計4名で担ぎました。準備の段階から、地域の方が着付けを手伝ってくれたり、一緒に写真撮影をしてくれたりと、みなさんの暖かさに包まれていました。

実際に、大名行列が始まると、道中でたくさんの方に「重そうだけどがんばって」、等と声をかけていただき、疲れを感じさせないほど、楽しく駕籠かきを行うことができました。初めて参加した1年生も、またやりたいと言ってくれて、嬉しい限りです。

木工体験の方では、地元の子供達がたくさん来てくれました。今回はストラップとオブジェを用意していたのですが、どちらも本当に楽しそうに作ってくれていました。『木材のよさ』と一言でいっても、その種類は様々だと思うのですが、木材に触れて、笑顔があふれる。これも大切な木材の魅力なのではと感じられました。

本陣祭が終わったあとの打ち上げでも、みなさんが笑顔で声をかけてくださって、充実感に包まれました。初めて参加した面々も、小原地域の方とたくさんお話ができたようです。

先輩方の代から長く活動を続けてきた場である小原。そこに暮らしている方々との大事な場である小原宿本陣祭。来年も、再来年も、これから先ずっとずっと続けて行きたいと思います。

淺野　雅樹（Forest Nova）

[報告３]
卒業生からの近況報告

昨春にForest Novaを卒業し、林業の世界へ就職した卒業生からの近況報告を紹介します。

ForestNova☆に所属し、皆様と小原・嵐山で活動させていただいていました齊藤駿一です。

今年度からは静岡県にて林業を営む会社に勤務しています。私自身は、森林経営計画の作成や補助金の申請といった事務仕事を主としながら、実際の現場で作業も行っています。計画を立てる際、地主さんに協力をお願いする際に現場がわからないと話になりません。

改めて現場の大切さを実感しています。現場を知っているから伝えられることがあるんだ！と騒いでいた学生時代をよく思い出します。ふと、そのことを伝えてくれたのは緑のダムの皆様、嵐山・小原の活動であったと気づきます。

また、山の仕事に就くことができたのもの、学生時代の活動があったからこそです。

緑のダム、小原地域の皆様とともに過ごす中で森の問題を何とかしたいと考えるに至りました。皆様と過ごす日々が純粋に楽しかったということもあると思います。

先日、石村様と川田様が当社を訪れてくれました。もはやただ同じフィールドで活動する社会人と学生の関係ではなく、もっともっと深い部分でのつながりがあると勝手ながら感じました。これもまた緑のダムの魅力のひとつだと思います。

話はそれましたが、緑のダム・ForestNova☆の皆様にはこれから

も現場を通して森に関わるキッカケの場として活動を継続していっていただけたらと思います。私も今はまだまだ小さいですが、いつか大きな力となって問題の解決に貢献できる人材になることを目指していきます。

大切な想いの詰まった嵐山、小原に森づくりという形で恩返しすることも大きな目標の一つとしてしっかりと学び、日々取り組んでいきます。

この場をお借りしまして、多くの感動を本当にありがとうございました。距離は遠くなりますが、これからも共に活動させていただきたいと思いますので、今後共よろしくお願いいたします。

齊藤　駿一
（財団法人　金原治山治水財団）

[報告４]
ワークショップ「積み木で作るアンコールワット」

去る８月６日から１２日までの１週間、本校生徒８人は上智大学アジア人材養成研究センター主催の「カンボジア緑陰講座」に参加してまいりました。「緑陰講座」とは、50年に渡ってアンコール研究にその生涯を捧げてこられた上智大学前学長、石澤良昭先生が「日本の学生とカンボジアの学生が共に歴史と遺跡について学び、相互に知的な交流ができるように」という願いを込めて名づけられたものだそうです。アンコール遺跡周辺のゴミ拾いから始まったというこの講座は、上智大学の“Men and Women for Others, with Others.”という教育の精神そのものと言ってもよいでしょう。参加した８人の生徒は、アンコール遺跡群の壮麗さとともに、研究者の生き方、社会貢献のあり方、「他者」と同じ環境に身を置くことの難しさと大切さを実感し、かけがえのない経験をカンボジアでできました。

日本に戻った１０月、石澤先生による講演会「水の都アンコールワット」とワークショップ「積み木で作るアンコールワット」が本校で行われました。いずれも全校生徒を対象とするもので、世界遺産アンコール遺跡群への理解を深めるとともに、石澤先生の研究活動を通して国際貢献のあり方を考えるとともに、自分たちは将来の夢や希望をどのように追いかけていくべきなのか、考える時間となりました。また、３万個の間伐材を使うことで、ワンコールワットの壮麗さを実感できただけでなく、木材という資源や、林業という産業について考察することもでき、貴重なワークショップ・講演会の機会となりました。

水島　直宏
（新潟清心女子高等学校、教諭）

会員コーナー

●本会のNPO法人登録10周年を記念して会員のコーナーを開設しました。
皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●9月より新年度を迎えます。新規会員募集と継続会員募集を開始します。
お振込みは極力ゆうちょ銀行からお願いいたします。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

●来月号から会費を納入いただいた方のお名前をこのスペースにてご紹介してはどうかと経営運営会議で検討しています。
お名前の掲載を辞退される方、またニックネーム等での掲載も可能です。
会員コーナー専用メールアドレスまでご一報ください。

掲載例：正会員、石村黄仁（東京都）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版